

新たに奨励品種に採用された 水稲品種「あきさかり」の特性

作物・特作部門 西原昇吾

1 はじめに

本県では、平成15年に早生の水稲の奨励品種として「はえぬき」を採用し、生産を奨励してきました。しかし、近年の温暖化傾向に伴う、充実不足や白未熟粒の発生による品質の低下の傾向がみられるため、「はえぬき」に代わる新たな奨励品種として「あきさかり」を令和2年に採用しました。そこで「あきさかり」の特徴を紹介します。

2 結果 (H29~R1の3か年平均値)

「はえぬき」と比較して、「あきさかり」は、「多収」で「外観（炊飯米の見た目）が優れる」といった特長があります。

表 品種の特性

品種名	移植日	出穂期	成熟期	穂数(本/m ²)	外観品質	倒伏程度	葉いもち	穂いもち	紋枯病
あきさかり	6月15日	8月14日	9月20日	402	2等	無	微	無	無
はえぬき	6月15日	8月11日	9月16日	389	2等	無	微	無	無

注1) 外観品質は1等、2等、3等、規格外の4段階で評価しました。

注2) 倒伏程度、病害の発生程度は無、微、少、中、多、甚の6段階で評価しました。

- ・「あきさかり」の方が、成熟が遅く、穂数が多い。品質や病害の程度については同等。

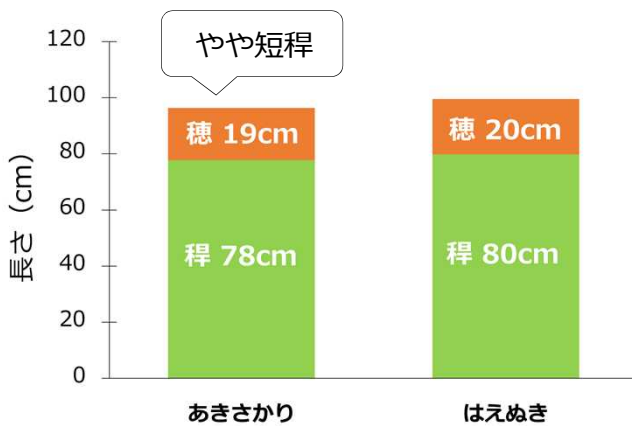


図1 稈と穂の長さ

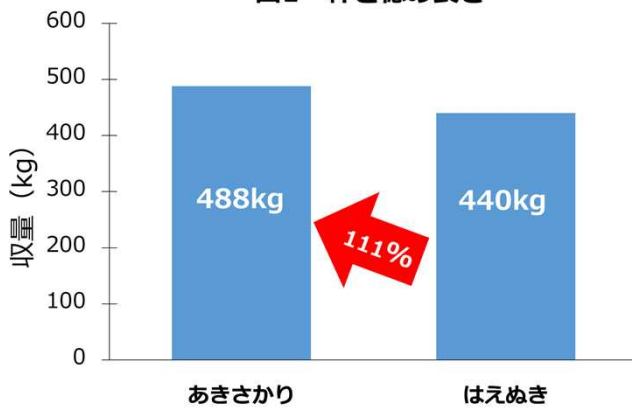


図2 10aあたり収量

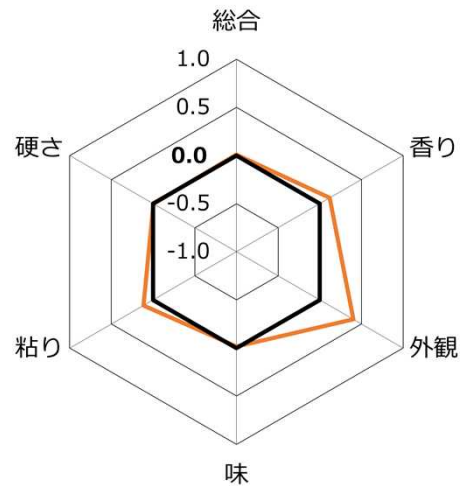


図3 食味官能試験結果

注) 比較する品種である「はえぬき」の値を基準(0)として、-3 ~ +3の間で評価をしました。「総合」「香り」「味」「外観」は値が大きいほど良く、「粘り」「硬さ」は値が大きいほど粘りがあり、硬いことを示します。

3 栽培にあたって気を付ける点

- ①穂数が多い(→紋枯病にかかりやすい)ので、適正防除を行いましょう。
- ②登熟期に高温にあたると、玄米の外観品質が低下するので、早植えを避け、適期移植に努めましょう。

※奨励品種とは地域に普及すべき優良な品種のことです。昭和27年に制定された「主要農作物種子法」では、国が各都道府県に対して奨励品種の選定を義務づけていましたが、この法律が平成30年4月に廃止されたことから、本県では、独自のこれに代わる実施要領を策定し、これに基づいて、奨励品種決定のための調査を継続しています。